こうほうショッキング

Vol.94

Kōhō shocking

Music For Passion

（上左から）はいり、りか、ゆずほ
（下左から）ゆり、こはる

●プロフィール

インタビュー当日は参加できなかったひかりを含め6人組の高校生バンド。それぞれがピアノやギター、吹奏楽や合唱を通じて音楽と親しみ、対馬高校入学をきっかけに出会う。昨年７月、パルまつりで初ステージ。厳原港まつりやティアラのポケットパークでのワンマンライブ、今屋敷クリスマスイベントに出演。カバー曲を演奏するほかメンバーで作詞作曲も手掛けている。学校活動とは違い、練習場所や楽器の確保などを自分たちで行いながら、情熱を持って音楽に向き合う彼女たちの活動に注目したい。

○グループの出発点は？

こはる：ピアノやギターの経験をもっと極めたいと思いながらも、学校には軽音楽部がなく、学内での活動は難しかったんです。それが「自分たちでやろう」という原動力にもなった気がします。私とはいり、ゆずほの３人で老人ホームを訪問し、童謡や懐かしい曲を演奏したのが、このグループの出発の原点。歌を聴いて泣いている人の姿に、歌で人の心が動く喜びのようなものを感じた時でした。

○バンド結成から約１年。振り返ると？

こはる：改善点を見つけながらの歩みですが、活動を始めた頃は、ここまで大きくなることは想像できていませんでした。

りか：ライブに向けての準備や楽器の調達など、厳しい時もあったけれど、ここまであっという間でした。良い経験でした。

○ステージ上で感じたお客さんの反応って、ありますか？

りか：自分たちが緊張してると、お客さんにも伝わって、ピリッとした雰囲気になっちゃいますね。

はいり：私はボーカルのほかに、曲の合間にトークを入れる担当なんですが、会場を盛り上げるのも、雰囲気を変えるのも、トークにかかってる部分もあるんだなって感じてます。

○本番から得られる経験は貴重ですね。

こはる：お客さんに認めてもらわなくちゃ、という思いのほうが強くなって、自分たちが楽しめてない時もありましたね。自分たちの「楽しい」って思いがお客さんにも伝わるんだと思うので、やっぱり自分たちが楽しめることが第一だと思います。

りか：同感です。第一に、自分たちが楽しめること。同時に、若い人が盛り上がれる場になることで、活性化になればと思っています。

はいり：そうですね。自分たちも楽しめれば、聴く人も楽しめると思うので、そんなステージをたくさん作りたいですね。

○グループのオリジナル曲の作詞は、主にゆりさんが担当されるそうですね。

ゆり：私は、気持ちが落ち込んでいる時に詞を書こうと思うことが良くあるんです。私自身、歌に元気づけられた経験もあるので、私たちの歌を通して思いを伝えられたら、って思いで書いています。

○今年の活動に込める思いを聞かせてください。

りか：去年は手探りの活動でした。今年はみんなで話し合いながら、しっかりと固めていきたいです。

こはる：去年はステージに慣れる年だったと思います。今年はしっかりとした土台の上に立って、お客さんを楽しませたいです。

はいり：技術も向上しているので、今年は弾けたいです。飛びます！酉年だけに（笑）。

ゆずほ：去年は自分たちができる最大限の力を出せていない時もありました。今年は自分たちの本当の力を見せることができるグループになりたいです。

ゆり：一人一人のスキルを向上させて、たくさんの人に元気や「明日頑張ろう」って思うきっかけになれるグループになりたいです。

※現在、彼女たちは練習会場を探しています。ご協力いただける方はぜひご一報ください。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回は厳原町久田道にお住いの宮野俊一さんです。お楽しみに。